

出張報告書

令和2年 2月17日

市議会議長 米田 貴志 様

会 派 名 公 明 党

代表者氏名 友永 修  (しくは記名押印)

下記のとおり報告します。

- 1 目 的 ^記
① 空家緊急総合対策・
② 英語教育 (ALT) について
③ くらし英語村
- 2 出 張 先 郡馬県高崎市
- 3 出張期間 令和2年2月3日 (月) ～4日 (火)
- 4 出張者氏名 松本妙子、岩崎雅秋、桑原佳一
南加代子、友永 修
- 5 てん末報告 別紙の通り

公明党（会派）行政視察レポート

報告者

松本妙子

視察先	群馬県高崎市	テーマ	空き家緊急総合対策について
日 時	令和2年2月3日（月）		
参加者： 友永修・岩崎雅秋・桑原佳一・南加代子・松本妙子			
●市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について ①先ず思う事は市長の強い思いによって、この対策が打たれていると感じました。 ②空き家の近隣の方からよく苦情がくる周囲に危険を及ぼす恐れのある老朽化した戸建て住宅及び併用住宅の空き家を対象にした助成では、本市では40万円が上限のところ高崎市では解体費用の5分の4、上限100万円の助成を行っている。本市も上限額・件数を上げれば多くの苦情に対応できるのではないかと思います。 ③本市では助成されていない「空き家管理助成金」が高崎市では行われている。これは空き家の建物内部の清掃や敷地内の除草等にかかった費用の一部（かかった費用の2分の1、上限20万円）を助成している。本市に於いても費用の一部を助成する制度を導入すれば草や樹木のトラブルの解消に繋がると思う。			

公明党（会派）行政視察レポート

報告者

松本妙子

視察先	群馬県高崎市	テーマ	英語教育（ALT）について
日 時	令和2年2月3日（月）		
参加者： 友永修・岩崎雅秋・桑原佳一・南加代子・松本妙子			
●市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について 高崎市は子どもたちの英語力の向上を図るため、小学校58校、中学校25校全校にネイティブスピーカーALTを配置している。英語を母国語とするネイティブスピーカーのALTを全校に配置し、「生きた英語」に触れる機会を増やすことで、子どもたちは自然と高い英語力を身に付けることができる。英語力はすぐに上がるというものではないが、外国人といつも顔を合わせている環境はとても良いことだと思う。 総務省、外務省、文部科学省と一般財団法人自治体国際化協会の協力により続けられてきたジェットプログラムを活用して、ALTのお世話は民間業者に委託しているのでスムーズに行われている様子。住居・ガス開栓・携帯・その他日常生活の面でも教育委員会の負担はない。教育委員会は、ALTにたいしては、指導力の向上のための研修や市の公務員としての立ち居振る舞いなど日本の文化の中で伝えることは伝えている。サービスのことにしても、1つ1つ丁寧に伝える。全校に配置しても学校側からの困難さは聞いていない。道徳的なことをわきまえて、やっている。全ての授業にALTに入ってもらい、子どもがALTを好きになり、またALTにも子どもを好きになってもらえるように工夫している。 小学校の担任の教師も外国人とティームティーチングで共に授業を行い、担任も英語能力が高まり、相乗効果もある。本市も何年か前は国のジェットプログラムを使っていたが、学校側がかなりのお世話に時間を費やしたため、最近は民間の派遣会社から市費でALTを任用している。財政厳しい中、多くのALTを任用していない。高崎市は、国のジェットプログラムで人数に応じて国から普通交付税が加算されている。 ALTのお世話（アパート・外国人登録、通帳、ガスなど）を国際交流ボランティア キャリアバンクジャパンに一人30万円で委託。 本市もこのような取り組みも考えてはどうか。 子どもたちが外人に触れ、また英語が楽しく好きになる。またそれが成績向上にもつながっていくのではないかな。 ちなみに高崎市の小学生の英語の成績は全国で東京都と並んで第1位。 高崎市長はじめ教育委員会のご努力に感動するとともに、たくさんのことを学ばせていただいた視察でした。			

公明党（会派）行政視察レポート

委員氏名

松本 妙子

視察先	群馬県高崎市	テーマ	くらぶち英語村
日 時	令和2年2月4日（火）		
参加者：友永修・岩崎雅秋・桑原佳一・南加代子・松本妙子 ●市政の課題の解決に向けて、参考になるとと思われることと考察について 高崎市長の肝いり事業の一つであるくらぶち英語村。 廃校になった小学校の跡地を利用し、総木造りの寄宿舎を建設。小学生と中学生が自然の中で国内留学できる山村留学施設。 外国人スタッフとともに様々な生活や体験活動を行い、「自立心」や「思いやりの心」、「生きる力」とともに日々の暮らしの中で実践的な英語力を高める。 子どもの頃から外国人に触れることは英語への関心を深めていくだけではなく、外国人になれることにより、グローバル化が進み、世界交流へと繋がっていくきっかけとなっていくのであらうと考える。全国から21名の子どもたちが、高崎市に住所を移して、小学生は毎日4kmの道のりを歩き、地元の小中学校に通っている。 登下校途中、地元の皆さんが「おはよう。行ってらっしゃい。」などと親しくお声をかけてくださり、家族のような気持ちで接してくださる。地域のみんなで子ども達を育てようとの温かさが伝わる。予算的には、本市には程遠い事業であるかもしれないが、小規模特認校事業の参考になればと考えます。高崎市長の未来を見据えた教育理念には敬服致しました。 考え方のスケールが大きく、こどもを育てるという教育への力の入れ方が違う。素晴らしいと思いました。			

[illegible]